

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 5月17日更新

事務事業名		アニメ・マンガを活かしたまちづくり事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会	課長名	栗木清智	
	施策	10	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	大隅理央	
	施策の柱	37	学習の啓発と参加機会の提供				所属班	生涯学習班	(内線)	1504	
予算科目		会計一般	款10	項5	目7	事業連番11544	根拠法令	成果優先度評価結果 : ⑥ コスト削減優先度評価結果 : ⑤			
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 23 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・市に賑わいや市外へPRを行うことを目的に、マンガ・アニメ・映像等を活用したイベントの実施。 ・市に縁のある漫画家やアニメクリエイター、更にはアニメ・マンガを活かしたまちづくりを行っている団体の協力を得て、市の資源を活かした地域CM制作やマンガ単行本等を作成し市内、市外にPRを行う。 ・コンテンツ産業の誘致に向けた関係団体との協議。
【業務の流れ】	・市に賑わいをもたらす施策として、本市に縁がある漫画家、映像プロデューサーと熊本県内で活躍されているNPO団体、更には専門性がある大学教授を招きシンポジウムを開催する。
【主な予算費目】	旅費、委託料、負担金
【意見や要望】	・マンガやアニメ等を活用した事業は、求めた声がある。 ・この事業は、他の自治体では、あまり取り組まれていなく、将来の市の発展に効果があると思う。 ・コンテンツ企業から合志市で事業を営みたいと要望があっている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO) 県内でマンガ・アニメ等のコンテンツでまちづくりを推進する団体と連携し、「熊本県コンテンツコミッション協議会」を立ち上げ、活性化のための研修や情報冊子、HPの作成及び現地視察ツアー等に取り組んだ。「合志マンガミュージアム」を開館し(H29.7.22)、多数のメディアで取り上げられたこともあって、予想を遥かに上回る来館者数を記録した。		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 収蔵図書のデータ整理や数年先の企画展構想の策定等に要する部分について人員の補強を行う。また、合志市や県内自治体と一緒に、コンテンツ企業と連携し活性化を図る施策として、地域資源の発掘や磨き上げを行い、コンテンツ企業の「作品」や「企業」の誘致活動を行う。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) ⇒ ア: 協議を行った回数 イ:		(単位)	予算の主な増減の理由 合志マンガミュージアムの運営に要する委託料の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 市民		(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) ⇒ ア: アニメ等関連事業をHP・SNS等に掲載した件数 イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 賑わいのあるまちづくりに取り組む		(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) ⇒ ア: HPを閲覧された回数 イ:
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠 アニメやマンガを活かした事業に関心があるかを指標とした。			総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移											
		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込	
① 活動指標		ア回 イ	20	30	30	23	30	30	30	30	
② 対象指標		ア回 イ	4	31	30	30	30	30	30	30	
③ 成果指標		ア回 イ	59,982	107,222	95,000	78,093	100,000	100,000	100,000	100,000	
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円			2,500					
		都道府県支出金	千円		12,049		814				
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	一般財源	千円	620	14,526	3,996	5,541	19,195			
		(A) 事業費計	千円	620	26,575	6,496	6,355	19,195	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	0	5	5	6	5	1	1	1
	人件費	延べ業務時間	時間	0	2,220	1,000	2,510	1,000	200	200	200
(B) 人件費計		千円	0	0	3,984	9,929	3,984	796	796	796	
トータルコスト(A)+(B)		千円	620	26,575	10,480	16,284	23,179	796	796	796	

事務事業名	アニメ・マンガを活かしたまちづくり事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	---------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度の後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 アニメ関係機関、県内のアニメ・マンガでまちづくりを目指しているNPO団体等との調整は図られ、事業仕分けで委員から良い評価もあった。しかし、この事業の目標を明確化する必要がある。
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 マンガやアニメを活用した取組みについて、市民参画の事業を実施し市民の理解も得られてきた。今後はコンテンツ企業と連携し更なる発展に努めたい。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 マンガ・アニメを活かした取組みを行っている自治体・大学等が近年増えてきている。今後はこのような自治体等と連携して進めることで成果の向上余地がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 施設の機能を発揮させるための最小限の予算で執行しているため削減の余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の事務で行っているため削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 キューブゾーン（展示室）では入場料を徴しているため、公平性は保たれる。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 マンガ・アニメ文化による賑わいのあるまちづくりに市が努めることには異論もあるが、故郷出身の漫画家等を活かすことは市の役割である。

3 評価結果の総括（CHECK）

アニメを活かしたまちづくりで、故郷出身の漫画家を活用することで賑わいがもたれると思われるが、出版社等の著作権関係で協力を得てもらうことが非常に難しい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												